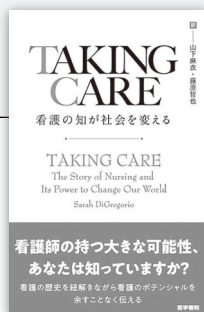


お役に立てるお薦めの

4冊

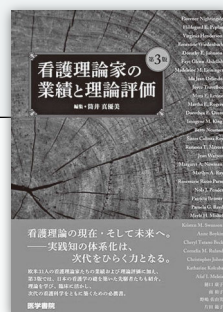


TAKING CARE 看護の知が社会を変える

Sarah DiGregorio 原著
山下麻衣, 藤原哲也 訳

専門職としての知識・技術を駆使して働く看護師は、実は社会を変える可能性を持つ人々であった。気鋭のジャーナリストは看護の歴史を紐解きながら、その大きな可能性を魅力的に伝える。そこで語られる物語から、人間社会の根幹を支える看護師のポテンシャルが明らかになる。

定価：3300 円(本体 3000 円 + 税 10%) / 医学書院

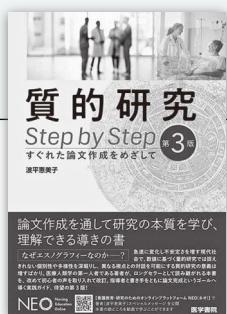


看護理論家の業績と理論評価 第3版

筒井真優美 編集

看護理論を、日本の看護者自身の視点から著したロングセラーの第3版。第Ⅰ部では、看護理論の評価を行ううえで基盤となる知識をまとめた。第Ⅱ部では、欧米 31 人の看護理論家の業績および理論と、それぞれの理論の評価を解説。新たに、日本の看護学の礎を築いた先駆者たちも紹介。

定価：7040 円(本体 6400 円 + 税 10%) / 医学書院



質的研究 Step by Step 第3版 すぐれた論文作成をめざして

波平恵美子 著

論文作成を通して研究の本質を学び、完成へと導く実践ガイドの最新版。量的研究では捉えきれない個別性や多様性を明らかにする質的研究の論文作成まで、医療人類学の第一人者が初学者の声を取り入れて、Step ごとに出会うさまざまな問題や疑問への対応策を理解しやすいよう加筆・修正。

定価：3080 円(本体 2800 円 + 税 10%) / 医学書院



乳と捨て子の〈近代〉 産み育てる現場から

沢山美果子 著

養育できない子どもを捨て他者にゆだねた〈近世〉から、母性愛が強調される〈近代〉へ。乳と捨て子を切り口に、産み育てる現場から、子どものいのちをつなぐ営みのあり方が、歴史的にどのように変化していったのか。生命観、子ども観、家族観の変化のプロセスを探る。

定価：1980 円(本体 1800 円 + 税 10%) / 吉川弘文館